



EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度 シラバス
- 学部生対象(M1:経済) -

最終更新日: 2017 年 10 月 18 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

シラバス参照



講義科目名	国際金融
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	岩田 健治
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	
教室	中講
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>基本科目「国際経済学Ⅱ(国際マクロ編)」で学んだ各種ツール(国際収支、外国為替と為替相場理論、国際マクロ経済学等々)を用いて、グローバル化のもとで現代国際金融が直面する諸問題について、歴史・制度を含む多様な視点から考察を進める。具体的には、国際通貨の理論と現状、国際通貨制度の歴史、グローバル化と為替相場制度、通貨協力・通貨統合とユーロ危機、世界金融経済危機などについて考える。</p> <p>This lecture approaches some issues on international monetary economics from various aspects including history and social system, using such tools earned in International Economics II as Balance of Payments, Foreign Exchange and Theory of Exchange Rate, and International Marco Economics. Specifically, students are expected to learn theory and current situation of International Money, History of International Monetary System, Globalization and Foreign Exchange Rate Systems, Monetary Corporation and Integration and Euro Crisis and World Financial Crisis etc.</p>						
キーワード	国際通貨、国際通貨制度、グローバル化、為替相場制度、通貨協力、通貨統合、ユーロ危機、世界金融経済危機						
履修条件等	基本科目「国際経済学Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。						
履修に必要な知識・能力	国際金融に関する基礎知識						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

PAGE TOP

到達目標	1. 国際金融に係る専門知識									
授業計画	No	進度・内容・行動目標						講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	ガイダンス						○		
	2.	I. 国際通貨の理論と現状 (第2-3回:教科書第4章)						○		
	3.	II. 国際通貨システムの歴史 (1870-1970年代) * 国際金本位制・IMF固定相場制 (第4-6回:教科書第14-16章)						○		
	4.	III. 金融グローバル化と国際金融 (1980年代以降) * 金融グローバル化と通貨危機 (第7回:教科書第12章) * 世界各国の為替相場制度 (第8回:教科書第12章)						○		
	5.	IV. 地域的通貨協力と通貨統合 (第9-11回:教科書第16章)						○		
6.	V. 金融危機と国際金融通貨システムの諸課題 (2000年代以降) * 世界金融危機(第12回:教科書第16章) * ユーロ圏政府債務危機(第13-14回:教科書第16章) * 国際金融・通貨システムの諸課題 (第15回:教科書第18章)						○			
授業以外での学習にあたって										
テキスト	上川 孝夫, 藤田 誠一編著(2012),『現代国際金融論 第4版』有斐閣ブックス。									
参考書	講義の進行の中で順次紹介する。									
授業資料	パワーポイントのプリントアウト版を配布する。 必要に応じて関連資料も配布する。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
		◎								
成績評価基準に関わる補足事項	試験(100%)により評価する。									
ルーブリック										
学習相談	授業終了後受け付ける。 より時間を要する相談は、メールで事前にアポイントをとること。									
添付ファイル										
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html									
更新日付	2017-10-05 10:23:31.435									



シラバス参照



講義科目名	西洋経済史
科目ナンバリングコード	
講義題目	市場社会の成立と発展—現代の世界経済を見据えて—
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	中講
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>経済史は、19世紀に西欧で確立した学問分野であり、必然的に「西洋」経済史として発展し、とりわけ16世紀以降の西欧諸国による経済的・政治的世界支配＝資本主義化を様々な角度から見て、理論化しようとしてきた。その時の考察空間は当然「西洋文明社会」に置かれることとなった。しかしながら、21世紀に入って西洋経済史が前提としていた政治や経済の区切りが、かつてほど明確でなくなることによって、いわば「世界史」の位置づけが再検討されるようになってきた。今や西洋経済史も「世界経済史」の部分として捉え直す必要が叫ばれてきているのである。本講義は、19世紀初頭から現在に至る世界経済の歩みを、覇権国の変遷および構造転換局面の位相という形で考察していく。</p> <p>Since its establishment as a science in the 19th century, The Economic History has developed as The European Economic History during the 20th century. The principal target of the researches were, initially and inevitably, the European Society and its civilization. From the beginning of the 21st century on, however, we see the necessity to review The European Economic History as a part of The World Economic History because the old frame work cannot explain the new difficulties that arose in the 21st century world. The main purpose of this course is to offer you some opportunities to be able to understand what The World Economic History is and to consider by yourself on what stage of the human history you are standing.</p>
キーワード	世界経済史、市場経済の史的構造転換
履修条件等	基本科目「経済史Ⅱ」を履修済であることが望ましい。

履修に必要な知識・能力	世界史の基礎知識があり、基本科目「経済史Ⅱ」を履修済であることが望ましい。講義資料をウェブで配信することがあるため、そのための備えが必要である。																																																																																									
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A:知識・理解</td> <td>以下の諸点について、西洋経済史の史実、用語などを十分に説明できる。 ・産業革命・世界市場の成立・資本主義の構造転換・現代資本主義の特質</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>B:専門的技能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技能</td> <td>近代西洋経済史の史実、用語などを文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができる。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td>近代西洋経済の史的現象について深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。</td> </tr> </tbody> </table>										No	観点	詳細	1.	A:知識・理解	以下の諸点について、西洋経済史の史実、用語などを十分に説明できる。 ・産業革命・世界市場の成立・資本主義の構造転換・現代資本主義の特質	2.	B:専門的技能		3.	C:汎用的技能	近代西洋経済史の史実、用語などを文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができる。	4.	D:態度・志向性	近代西洋経済の史的現象について深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。																																																																	
No	観点	詳細																																																																																								
1.	A:知識・理解	以下の諸点について、西洋経済史の史実、用語などを十分に説明できる。 ・産業革命・世界市場の成立・資本主義の構造転換・現代資本主義の特質																																																																																								
2.	B:専門的技能																																																																																									
3.	C:汎用的技能	近代西洋経済史の史実、用語などを文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができる。																																																																																								
4.	D:態度・志向性	近代西洋経済の史的現象について深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。																																																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1.</td><td>第1回・第2回 世界経済の捉え方</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2.</td><td>第1回・第2回 世界経済の捉え方</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3.</td><td>第3回～第5回 自由主義局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4.</td><td>第3回～第5回 自由主義局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5.</td><td>第3回～第5回 自由主義局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6.</td><td>第6回～第8回 構造転換の諸局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7.</td><td>第6回～第8回 構造転換の諸局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8.</td><td>第6回～第8回 構造転換の諸局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9.</td><td>第9回 中間試験</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10.</td><td>第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11.</td><td>第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12.</td><td>第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13.</td><td>第13回～第15回 新自由主義局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14.</td><td>第13回～第15回 新自由主義局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15.</td><td>第13回～第15回 新自由主義局面</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>										No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	第1回・第2回 世界経済の捉え方	○			2.	第1回・第2回 世界経済の捉え方	○			3.	第3回～第5回 自由主義局面	○			4.	第3回～第5回 自由主義局面	○			5.	第3回～第5回 自由主義局面	○			6.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○			7.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○			8.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○			9.	第9回 中間試験	○			10.	第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代	○			11.	第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代	○			12.	第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代	○			13.	第13回～第15回 新自由主義局面	○			14.	第13回～第15回 新自由主義局面	○			15.	第13回～第15回 新自由主義局面	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																																																						
1.	第1回・第2回 世界経済の捉え方	○																																																																																								
2.	第1回・第2回 世界経済の捉え方	○																																																																																								
3.	第3回～第5回 自由主義局面	○																																																																																								
4.	第3回～第5回 自由主義局面	○																																																																																								
5.	第3回～第5回 自由主義局面	○																																																																																								
6.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○																																																																																								
7.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○																																																																																								
8.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○																																																																																								
9.	第9回 中間試験	○																																																																																								
10.	第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代	○																																																																																								
11.	第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代	○																																																																																								
12.	第10回～第12回 パクス・アメリカナの時代	○																																																																																								
13.	第13回～第15回 新自由主義局面	○																																																																																								
14.	第13回～第15回 新自由主義局面	○																																																																																								
15.	第13回～第15回 新自由主義局面	○																																																																																								
授業以外での学習にあたって	教科書を主として参考図書的に利用しながら、講義はパワーポイント画像を中心として進める。必要な箇所では、他に有用な文献や視聴覚資料を受講者の理解を助ける手段に活用する。後者の内容も試験の範囲とするので、十分に留意すること。																																																																																									
テキスト	石見徹(著)『世界経済史—覇権国と経済体制—』(東洋経済新報社)																																																																																									
参考書	長岡新吉(他著)『世界経済史入門』(ミネルヴァ書房)／馬場哲他・山本通(他著)『エレメンタル欧米経済史』(晃洋書房)／奥西孝全・鳩澤歩(他著)『西洋経済史』(有斐閣)																																																																																									
授業資料	資料のダウンロードサイト http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm																																																																																									
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)		◎		◎	◎							○		○	○																																																							
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																																																																																	
	◎		◎	◎																																																																																						
	○		○	○																																																																																						

成績評価基準に関わる補足事項	単位認定に際しては、定期試験の結果を重視する(80～90%)。またそれ以外に、出席の状況や講義中行なう臨時試験あるいはレポート等の点数も加味することがある(10～20%)。
ルーブリック	◎前期2017(H29)年度西洋経済史ルーブリック(アップ済).pdf
学習相談	オフィスアワーは随時。ただし、電子メールを通じて事前に予約すること(fujii@econ.kyushu-u.ac.jp)。
添付ファイル	
その他	<p>第9回を簡単な中間試験とする。なお、最終回で教場試験とすることがある。講義の詳細かつ具体的な仕方については、初回の講義時に行う。</p> <p>なお、本講義はEUIJ九州の『学部EU研究ディプロマプログラム(学部EU-DPs)』科目(経済モジュール)としても開講する。</p> <p>【EU-DPs 科目分類】 (B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。</p>
更新日付	2017-03-14 17:05:02.333



シラバス参照



講義科目名	経済史Ⅱ
科目ナンバリングコード	
講義題目	グローバリズムと欧米経済
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 3時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	201
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>授業の概要: 経済史Ⅱは、資本主義システムによる経済社会の空間的な膨張と構造的変化を探究することを基本テーマとする。欧米側の視点から、資本主義世界システムの展開と構造を明らかにし、その歴史的意義を考察していく。</p> <p>The main theme of this lecture is to elucidate the historical mechanism of the expansion of capitalism and the structural change of the economic society. By following the lecture, students will be able to understand the historical process of capitalism and its nature as a world system.</p>						
キーワード	資本主義、世界システム、パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカーナ						
履修条件等	きちんと出席し、授業に取り組む姿勢を必要とする。						
履修に必要な知識・能力	世界史の基礎知識を持つことが望ましい。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A: 知識・理解</td> <td>経済史の基本的な流れを理解することができる。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A: 知識・理解	経済史の基本的な流れを理解することができる。
No	観点	詳細					
1.	A: 知識・理解	経済史の基本的な流れを理解することができる。					

到達目標	2.	B: 専門的技能			
	3.	C: 汎用的技能	経済史の史実を的確に把握し、自らの見解を述べることができる。		
	4.	D: 態度・志向性	経済の史的現象について考察し、現代的問題関心へ接続できる。		
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	第1回 授業の概要説明 1.1「経済史の対象と課題」	○		
	2.	第2回 1.2「経済史の方法(理論と実証: 様々な歴史観)」	○		
	3.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張: 中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀: 世界システム論へ」	○		
	4.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張: 中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀: 世界システム論へ」	○		
	5.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張: 中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀: 世界システム論へ」	○		
	6.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張: 中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀: 世界システム論へ」	○		
	7.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張: 中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀: 世界システム論へ」	○		
	8.	中間試験(予定)	○		
	9.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
	10.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
	11.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
	12.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
	13.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
	14.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
	15.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「バクス・フリタニカ」 3.2「バクス・アメリカーナ」	○		
授業以外での学習にあたって	特定のテキストは定めず、パワーポイントによるノート講義とするため、一定の予習と復習を必要とする。				
テキスト	パワーポイント配布資料による。				
参考書	授業中適宜指示する。				
授業資料	事前にパワーポイント資料を配信する。ダウンロード先のURLは以下の通り。				

[http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F\(main\).htm](http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm)

成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠 格 条 件 ・ 割 合)
		◎		◎	◎					
		○		○	○					
		○		○	○					

成績評価基準 に関わる補足 事項	中間ミニテストと定期試験の結果を総合して、成績評価を行う。
ルーブリック	◎後期2017(H29)年度経済史Ⅱルーブリック(アップ済).pdf
学習相談	オフィスパワーは随時としている。メールにて予約のこと。メールアドレスは以下の通り。 fujii@econ.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html 本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。 【EU-DPs 科目分類】(B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。
更新日付	2017-03-14 17:42:01.119



シラバス参照



講義科目名	外国書講読(仏語経済)①
科目ナンバリングコード	
講義題目	フランスのマネジメント・コントロールと管理会計を学ぶ
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	大下 文平
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2, 3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語、フランス語
教室	P21
その他 (自由記述欄)	学習意欲のある学生の参加を期待しています。

授業概要	<p>フランスのモケ教授の研究を通して、最新のフランスのマネジメント・コントロール論と管理会計論を学びます。受講生は、本書の講読によって、フランスのマネジメント・コントロール論のみならず、ビジネス・フランス語の基礎を学ぶことができるでしょう。また、受講生のレベルに応じて適切な文法書を購入してもらい、それを解説しながら、併せて講義を進めることも考えられます。</p> <p>In this class, we will learn the theory of management control and management accounting through current works of Professor A.C. Moquet. Students, in reading of the book, will be able to learn the basics of French business language, as well as that of French control theory. In addition to that, we can purchase the proper grammar book depending on the level of the students, and in explaining it, we can continue our class.</p>						
キーワード	マネジメント・コントロール、管理会計、パラドックス、フランス、社会責任戦略コントロール、ダノン						
履修条件等	基礎的な初級フランス語文法を習得していることが望ましい						
履修に必要な知識・能力	語学力、経済・経営・会計の入門的な知識、言語習得に対する忍耐力						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

到達目標	1.	A:知識・理解	基本的なフランス語文法
	2.	B:専門的技能	最低限、経営・会計の基礎が必要
	3.	C:汎用的技能	
	4.	D:態度・志向性	ともかく出席すること、そして徹底した予習をおこなうこと

到達目標	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
授業計画	2.	以下、指定したテキストを、指定された担当者が報告する形で、輪読していきます。			
	3.	同上			
	4.	同上			
	5.	同上			
	6.	同上			
	7.	同上			
	8.	同上			
	9.	同上			
	10.	同上			
	11.	同上			
	12.	同上			
	13.	同上			
	14.	同上			
	15.	まとめ 総復習			

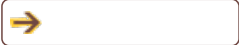
授業以外での学習にあたって 担当部分の徹底した予習が求められます。

テキスト 以下のテキストの関連個所のコピーを事前に配布しますので、受講を希望する人は大下の研究室まで取りに来てください。研究室は、経済の建物の5階にあります。部屋番号は511号です。よろしく願いいたします。
Anne-Chatherine Moquet, Le Control societale, Vivert, 2010.

参考書 参考図書については、担当者が関わっている以下のものを掲げておきます。
①大下丈平著『フランス管理会計論—工業会計・分析会計・管理会計—』同文館, 1996年。
②アンリ・ブッカン著『ブッカン フランス管理会計』(大下丈平・丸田起大訳)同文館, 2000年。
③大下丈平著『現代フランス管理会計:会計、コントロール、ガバナンス』中央経済社、2009年など。

授業資料 講読に必要な補助的な資料は、随時コピーして配布します。

到達目標	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
		到達目標								
成績評価		◎	◎	○	◎					

		◎	◎	◎	◎					
					◎					
成績評価基準 に関する補足 事項	成績評価にあたって、出席を重視します。それに加えて、できないとは別に、予習をどれだけ真面目にやっているかを重視します。									
ループリック										
学習相談	随時、行います。事前にメールでアポイントを取ってください。									
添付ファイル										
その他										
更新日付	2017-03-16 17:54:04.389									



シラバス参照



講義科目名	国際会計
科目ナンバリングコード	
講義題目	国際会計と多国籍企業
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 3時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	潮崎 智美
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	201
その他 (自由記述欄)	

授業概要	グローバル化の進行する社会のなかでも、会計基準のグローバル化は他の領域に先んじて進行しており、会計のグローバル・スタンダードが世界的に普及している状況にあります。本講義では、経済的・政治的・社会的環境の影響を受けて形成されている各国の会計の状況、その国際的相違、ならびにその相違を減少させる取り組みについて学習し、会計を通じて見えるグローバル化の諸問題について考えます。		
キーワード	国際会計基準(IFRS)、会計制度・実務の国際的相違		
履修条件等	会計学Ⅰおよび会計学Ⅱを履修済みであること		
履修に必要な知識・能力	現在世界に生じている未解決の諸問題に積極的に取り組もうとする意欲		
到達目標	No	観点	詳細
	1.	A:知識・理解	
	2.	B:専門的技能	

3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	オリエンテーション	○		
	2.	国際会計と国際ビジネス	○		
	3.	国際会計の種類、文化、発展	○		
	4.	財務会計の国際比較 I	○		
	5.	財務会計の国際比較 II	○		
	6.	財務諸表の国際比較分析	○		
	7.	透明性と情報開示	○		
	8.	—中間試験—			
	9.	会計基準の国際的統合化	○		
	10.	企業結合、のれんおよび無形資産	○		
	11.	セグメント報告	○		
	12.	外貨の会計	○		
	13.	コーポレート・ガバナンスとグローバル経営	○		
	14.	国際監査における諸問題	○		
	15.	—定期試験—			

授業以外での学習にあたって 参考書に挙げた英文文献を用いて、英語で同時に学習することを推奨します。

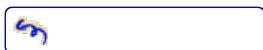
テキスト 参考書をベースとした授業資料を用いて講義します。

参考書 Radebaugh, L., S. J. Gray and E. L. Black (2006) International Accounting and Multinational Enterprises, Sixth Edition, John Wiley & Sons, Inc. (小津稚加子監訳[2007]『多国籍企業の会計』中央経済社)

授業資料 授業資料は九州大学e-Learning System Moodleにアップします。

成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
			○	○	○					
		○								
					○					
	中間試験	○	○	○						

成績評価基準に関わる補足事項	平素の成績(小テストおよび授業態度など)、中間試験、定期試験により評価します。
ループリック	
学習相談	メールでアポイントメントを取ったあと、研究室に来ること。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。
更新日付	2017-03-29 19:49:42.126



シラバス参照



講義科目名	外国書講読(仏語経済)①
科目ナンバリングコード	
講義題目	フランス語で読む近代経済史
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2, 3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	P11
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>Le Grand Commerce maritime au XVIIIe siècle 中の 論文を講読することを通じて、大航海時代の国際貿易について知識を深めていく。</p> <p>By reading the texte (one of the articles contained in Le Grand Commerce maritime au XVIIIe siècle), you will be able to understand the situation of the trades executed globally during the 18th century.</p>		
キーワード	フランス語・西洋経済史・商業革命・大航海時代・近代世界システム		
履修条件等	フランス語読解の基礎力があること。受講に積極的な姿勢を持つこと。		
履修に必要な知識・能力	フランス語の基本的文法を理解し、社会科学的な思考力によってフランス語の文章を解釈することができること。		
	No	観点	詳細
	1.	A: 知識・理解	以下の諸点について、ヨーロッパの大航海時代を史実と共に説明できる。・大西洋システム・商業革命・東インド貿易

到達目標	2. B:専門的技能	ヨーロッパ近世史に関する基本的知識や用語を、フランス語で理解することができる。								
	3. C:汎用的技能									
	4. D:態度・志向性	ヨーロッパ近世の経済あるいは貿易について、深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。また、授業への積極的な関与によって、フランス語での理解や表現を練磨することが可能となる。								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	第1回 授業とテキストに関する説明。	○		予習が不可欠である。以下同様。					
	2.	第2回 受講生による輪読開始。以降同様。途中小テストを行うことがある。		演習。以下同様。						
授業以外での学習にあたって	予習が不可欠である。									
テキスト	Le Grand Commerce maritime au XVIIIe siècle.									
参考書	適宜授業中に示す。									
授業資料	適宜授業中に示す。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎		◎					
		○	○		○					
		○	○		○					
		○	○		○					
		○	○		○					
		◎	○		◎					
成績評価基準に関わる補足事項	おおむね、出席80%、定期試験20%で成績評価する。									
ルーブリック	◎後期2017(H29)年度後期仏経ルーブリック(アップ済).pdf									
学習相談	オフィスアワー・学習相談は随時。メールにて予約をすること。 fujii@econ.kyushu-u.ac.jp									
添付ファイル										
その他	本講義は『学部EU研究ディプロマプログラム(学部EU-DPs)』科目(経済モジュール)としても開講する。 【EU-DPs 科目分類】 (B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://www.eui-kyushu.com/jp/home/index.html 本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。									
更新日付	2017-03-14 17:19:31.586									

シラバス参照



講義科目名	外国書講読(独語経済)①
科目ナンバリングコード	
講義題目	資本主義のゆくえ
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	潮崎 智美
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2, 3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	主に日本語。テキストは独語。
教室	P21
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>経済・経営の専門用語や基礎知識を独語で身に付けるとともに、その知識を独語で表現するための基盤を作ることを目的として、独語で書かれた新聞・雑誌記事や文献を読む。</p> <p>本授業では、グローバルゼーション、金融危機、移民、Brexit、トランプ政権など近年生じている様々な諸問題を取り込みつつ、ドイツ型資本主義をアングロ・アメリカン型資本主義との対比において考察・議論する。</p> <p>The objective of this course is to understand and discuss present German economy and business with some readings written in German. The course topic for this semester is "German automotive companies in global economy". Course materials, i.e. annual reports, articles or literatures, are provided in the class.</p>						
キーワード	ライン(ドイツ)型資本主義、アングロ・アメリカン(サクソン)型資本主義						
履修条件等	独語を履修していることが望ましい。						
履修に必要な知識・能力	独語の読解能力。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

到達目標	1. A:知識・理解	経済独語の用語を理解している。								
	2. B:専門的技能	経済独語の文章を読むことができる。								
	3. C:汎用的技能	経済独語の文章が理解できる。								
	4. D:態度・志向性	自発的に継続的に、経済独語の学習に取り組んでいる。								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	オリエンテーション								
授業以外での学習にあたって	予習・復習を行うこと。									
テキスト	授業中に配布する。									
参考書	授業中に指示する。									
授業資料	授業中に配布する。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠 格 件 ・ 割 合)
		○								
		○	○	○	○					
		○	○	○	○					
					○					
成績評価基準 に関わる補足 事項	平素の成績による。									
ルーブリック										
学習相談	メールでアポイントを取った上で、来室のこと。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 経済学部棟503									
添付ファイル										
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。									
更新日付	2017-03-29 20:07:35.881									



シラバス参照



講義科目名	比較制度
科目ナンバリングコード	
講義題目	制度経済学の基礎と応用 Foundation and Application of Institutional Economics
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期集中
曜日時限	前期集中 その他 その他
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	磯谷 明德
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3, 4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語 Japanese
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>「制度が重要である」という認識は、20世紀末からの現代経済学における多くの研究者たちによって共有されてきたものである。この共通の認識の下、研究者たちによる制度の「再」発見を通じて、制度経済学は新たな再生を遂げた。この再生から、新制度派経済学や現代制度派経済学、比較制度分析、企業と組織の経済学、制度と進化の経済理論など、多様なアプローチが登場した。</p> <p>本講義では、20世紀末からの制度経済学の多様な展開から得られる知見を踏まえた上で、制度経済学の基礎的枠組みを、「貨幣」、「労働」、「動学」という3つの視点から理解し学習することを目的とする。</p> <p>The conception that institutions matter has been shared by many researchers in the field of modern economics since the late 20th century. Under this common conception, institutions were 're'discovered by many researchers, and institutional economics made a newly resurgence. From this resurgence, many approaches to the institution, such as New Institutional Economics (NIE), Modern Institutional Economics, Comparative Institutional Economics (CIA), Economics of Firm Organizations and Economics of Institutions and Evolution, have emerged.</p> <p>In light of the insights which were obtained from the various development in the revival of institutional economics since the late 20th century, this class aims at understanding and studying the fundamental framework of institutional economics from the three viewpoints of 'money', 'labour', and 'dynamics'.</p>
	制度経済学、社会経済システムの制度分析、多様性と進化、制度的補完性、制度階層性、制度動学

キーワード	Institutional economics, Institutional analysis of socio-economic systems, Diversity and evolution, Institutional complementarity, Institutional hierarchy, Institutional dynamics																																																																																				
履修条件等	特になし。																																																																																				
履修に必要な知識・能力																																																																																					
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>制度経済学の基本的枠組みとその応用</td> <td>現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>現代経済学の多様性</td> <td>新古典派経済学とは異なる現代経済学のメニューは多様であることを理解する。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>制度動学の理論的枠組みの理解</td> <td>新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学、特にポスト・ケインジアンマクロ経済学の理論的枠組みを学習する。</td> </tr> </tbody> </table>					No	観点	詳細	1.	制度経済学の基本的枠組みとその応用	現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。	2.	現代経済学の多様性	新古典派経済学とは異なる現代経済学のメニューは多様であることを理解する。	3.	制度動学の理論的枠組みの理解	新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学、特にポスト・ケインジアンマクロ経済学の理論的枠組みを学習する。																																																																				
No	観点	詳細																																																																																			
1.	制度経済学の基本的枠組みとその応用	現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。																																																																																			
2.	現代経済学の多様性	新古典派経済学とは異なる現代経済学のメニューは多様であることを理解する。																																																																																			
3.	制度動学の理論的枠組みの理解	新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学、特にポスト・ケインジアンマクロ経済学の理論的枠組みを学習する。																																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>・イントロダクション ・社会経済システムへの制度論アプローチ① (制度経済学の諸潮流)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>社会経済システムへの制度論アプローチ② (制度とは何か／制度経済学の基本視点)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>市場への制度論アプローチ① (制度としての貨幣・市場／市場システムの制度的特徴)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>市場への制度論アプローチ② (寡占市場と価格の硬直性／価格調整と数量調整)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>貨幣的生産の制度分析① (有効需要論の貨幣的基礎／貨幣需要と流動性選好)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>貨幣的生産の制度分析② (内生的貨幣供給／金融システムの不安定性)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>労働市場と賃金・雇用① (2つの労働市場像／賃金と雇用の決定)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>労働市場と賃金・雇用② (雇用システムの制度的多様性)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>企業への制度論アプローチ① (新古典派経済学の企業像／企業組織への2つのアプローチ)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>企業への制度論アプローチ② (株式会社と企業統治／雇用システムと企業統治の制度的補完性)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>制度動学:短期分析①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>制度動学:短期分析②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>制度動学:長期分析①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>制度動学:長期分析②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>教場試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	・イントロダクション ・社会経済システムへの制度論アプローチ① (制度経済学の諸潮流)	○			2.	社会経済システムへの制度論アプローチ② (制度とは何か／制度経済学の基本視点)	○			3.	市場への制度論アプローチ① (制度としての貨幣・市場／市場システムの制度的特徴)	○			4.	市場への制度論アプローチ② (寡占市場と価格の硬直性／価格調整と数量調整)	○			5.	貨幣的生産の制度分析① (有効需要論の貨幣的基礎／貨幣需要と流動性選好)	○			6.	貨幣的生産の制度分析② (内生的貨幣供給／金融システムの不安定性)	○			7.	労働市場と賃金・雇用① (2つの労働市場像／賃金と雇用の決定)	○			8.	労働市場と賃金・雇用② (雇用システムの制度的多様性)	○			9.	企業への制度論アプローチ① (新古典派経済学の企業像／企業組織への2つのアプローチ)	○			10.	企業への制度論アプローチ② (株式会社と企業統治／雇用システムと企業統治の制度的補完性)	○			11.	制度動学:短期分析①	○			12.	制度動学:短期分析②	○			13.	制度動学:長期分析①	○			14.	制度動学:長期分析②	○			15.	教場試験			
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																																																	
1.	・イントロダクション ・社会経済システムへの制度論アプローチ① (制度経済学の諸潮流)	○																																																																																			
2.	社会経済システムへの制度論アプローチ② (制度とは何か／制度経済学の基本視点)	○																																																																																			
3.	市場への制度論アプローチ① (制度としての貨幣・市場／市場システムの制度的特徴)	○																																																																																			
4.	市場への制度論アプローチ② (寡占市場と価格の硬直性／価格調整と数量調整)	○																																																																																			
5.	貨幣的生産の制度分析① (有効需要論の貨幣的基礎／貨幣需要と流動性選好)	○																																																																																			
6.	貨幣的生産の制度分析② (内生的貨幣供給／金融システムの不安定性)	○																																																																																			
7.	労働市場と賃金・雇用① (2つの労働市場像／賃金と雇用の決定)	○																																																																																			
8.	労働市場と賃金・雇用② (雇用システムの制度的多様性)	○																																																																																			
9.	企業への制度論アプローチ① (新古典派経済学の企業像／企業組織への2つのアプローチ)	○																																																																																			
10.	企業への制度論アプローチ② (株式会社と企業統治／雇用システムと企業統治の制度的補完性)	○																																																																																			
11.	制度動学:短期分析①	○																																																																																			
12.	制度動学:短期分析②	○																																																																																			
13.	制度動学:長期分析①	○																																																																																			
14.	制度動学:長期分析②	○																																																																																			
15.	教場試験																																																																																				
授業以外での学習にあたって	<p>・植村博恭・磯谷明德・海老塚明『新版 社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会、2007年。</p>																																																																																				

テキスト	・ 宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門 社会経済学[第2版]』ナカニシヤ出版、2010年。									
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベルナール・シャバンス『入門 制度経済学』ナカニシヤ出版、2007年。 ・ Boyer, R., Uemura, H. and Isogai, A. (eds.) Diversity and Transformations of Asian Capitalisms, Routledge, 2012. (Paperback edition, August 2013) ・ 植村博恭・山田鋭夫・宇仁宏幸・磯谷明徳編『転換期のアジア資本主義』藤原書店、2014年。 ・ 磯谷明徳「制度経済学：一世紀の時を経て再生・復活、経済システムの多元性と進化の経済学へ」経済セミナー増刊『総力ガイド これからの経済学』日本評論社、2015年。 									
授業資料	適宜、配布する。 なお、講義資料については、集中講義第1日目の第1回時に指示する。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	◎						
		◎	◎	◎						
成績評価基準に関わる補足事項										
ルーブリック										
学習相談	毎回の講義終了時に受け付ける。									
添付ファイル										
その他	<p>本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。</p>									
更新日付	2017-04-04 00:05:44.779									

